

本音 DE ゆうとーみー

「本音DEゆうとーみー」は、衛星放送局・京都チャンネルと本誌CFが共同制作するメディアミックス企画。京都人の本音トークを通じて、京文化の楽しみ方や日常生活の応用法、ビジネスへの活用法を探るのが目的だ。第9回の「平塚景堂 vs. 金正邦広」は京都チャンネルで2/18より数回にわたって放映されている。

●資料請求・質問は、スカイパーフェクトV! カスタマーセンターまで。 TEL.0570・039・888

企画・制作/京都チャンネル 月刊「CF (シー・エフ)」

構成・演出/「本音DEゆうとーみー HONNE DE YOU TO ME」企画プロジェクト

取材・文/大塚祐希事務所 撮影/大島拓也

京都へ来た、戻った道のり

芸術家僧侶として親しまれる養源院住職、平塚景堂若手クリエイター達の指南役、金正邦広一見接点のない異業種に就きしかも異世代東京、京都と生まれも異なるふたりが「何故、ライフステージが京都なのか」という当企画の基本コンセプトを大テーマに本音を語り合った



相国寺 養源院 住職
ひらつかいどう
平塚景堂

49年東京生まれ。東京芸術大学卒。3回生の信州スケッチ旅行時、宿泊した寺の住職に魅せられ禅の世界へ。3年の修行を経て、京都・大徳寺の道場へ入門。6年後、養源院の住職に就任し、今年で17年目。作曲家、現代美術作家、演劇の脚本家としても精力的に活動し、芸術にも造詣の深い僧侶として親しまれている。



FORCE COMMUNICATIONS代表
きんしょうくにひら
金正邦広

64年京都生まれ。立命館大学経営学部卒。在学中、企業タイアップ型イベントサークルを主宰。卒業後、広告業界で活躍しながらも、独自のコミュニケーションビジネスを確立し、後に単身N.Y.へ。多くのクリエイター友達を作り帰国。95年、フォースコミュニケーションズ設立。若手クリエイターを後援する多くの企画を手掛ける。



写真のリーフは1996年spring Tシャツコレクションの初回版。新進気鋭のデザイン集団を起用。後に彼らの生んだパッチャルアイドル「チャッピー」は一世を風靡。他、インディーズユニットのジャケットヴィジュアルの企画など、そのクリエイティブな活躍は多岐に渡る。



岩絵具や金箔を用いて描いた日本画は1998～1999年の作品。サイズ50号の大作。作曲作品としては室内楽を中心に30曲近くあり、CDには弦楽四重奏曲「夢十夜」と同第二番を収録。他、詩集は「静かな夜の記録」(1990年)、「オリヴィエ追想」(1995年)がある。

金正 今日はお寺さんとお話ができるということで、楽しみにやって参りました。
平塚 私も同じ京都で現代的なお仕事をされているときき、楽しみにしております。よろしく。

金正 今日の舞台は美術館。一住職も絵のたしなみがありだとか。
平塚 素材は日本画の岩絵具ですが、内容は現代美術なんです。古いものと新しいものがうまく溶け合っているけれど、京都の将来も明るいですよね。あなたのお仕事も、京を基盤とした先鋭的なビジネスでらっしゃる。詳しく教えていただけますか。

金正 小さい頃から絵を描くのが好きで。ノートも、道路も、どこでもキャンパスにしてしまっ。大学も京都芸大を受けたんですが「いりません」と(笑)。実家が呉服問屋だったこともあって、経営の勉強をすることに。でもやっぱり自分の中にクリエイティブな部分が残っていて、イラストを描いたり、ギャラリーのイベントに参加したりしてたんです。そんな中で友達が増えていって。人と話すのも好きだったんで、経営学のシミュレーションとしてイベントやツアーを企画しました。そしてネットワークが関西エリアまで広がって。当時は企業さん

が学生に興味を持ってた時期だったんで、セールスプロモーションのようなものを企業さんとタイアップしてやろうって。しかもアートイメージを加えたもので。
平塚 いわゆる学生ベンチャーのはしり。経営学を実践で覚えちゃうわけですか。
金正 それを見た広告代理店さんから声を掛けていただいた。自然と広告を媒体としたコミュニケーションビジネスのフィールドに入ってしまったんです。
平塚 ニューヨークに行かれたのはその後ですか。
金正 ええ。クリエイターや、尊敬できるビジネススマン、音楽やファッションの趣味の合う人など、広告の仕事の中で出会った人たちとサークルみたいなグループを作ったんです。その時に自分にとってすごくいいフィールドだと感じたんです。ニューヨークへ行ったのは「独立前に一度本物を見てこい」とおっしゃって下さった方がいて。現地でも特にモダンアート中心のアーティストのネットワークが出来ました。

平塚 そのネットワークを持ち帰ってらしたんですね。でも、なぜ東京でなく京都に？
金正 僕のネットワークはやはり京都が中心でした。帰国してプロダクションを立ち上げて、音楽、ファッションと動いているうちに自然とチャンスが来て、広がり

も出てきた。というのは、最初の印象的な仕事でファッションショップのネーミングの変更だったんです。スピンスという名前なんです。名前だけじゃなくコンセプト作りから参加できたんです。その時に音楽やアート、ライフスタイルをドッキングしたコンセプトを作ろうと思いついて、服だけでなく、生活を潤すものを商品にしよう。

平塚 ネットワークを最大限に活かすビジネスに発展していったんですね。
金正 中でも特に若手クリエイターをバックアップする企画を進めています。京都の子たちは地道で細やかなベースと斬新な想像力を持っているんです。それを世に出すには僕らのような仕事が必要。僕が京都にいる今の理由は、京都の若いクリエイターたちのセンスと潜在的な才能に惚れ込んでいるからなんです。ご住職はなぜ京都に？ 若大を出られてお坊さんになられた経緯も興味があるんです。

平塚 わたしはあなたと正反対。人が嫌い。人に会いたくなかった。
金正 えっ？ そんな風に見えませんか。
平塚 芸術大学に行きますと、さらに人付き合いが嫌になりました。芸大の学生というの、ほとんどが自分のことを芸術家だと思いついて。一体何を考えているのかわからなくなりましてね。友達がひ

とりも出来ませんし、先生とも口をききませんでしたよ。世の中のきまりってどうなってるのかと思って。そんなとき、冬の信州へスケッチ旅行に出かけたんです。旅館に泊まるお金がないからお寺へ行きましたら、その和尚さんが雪かきを手伝えと。そして和尙さんが雪かきをやらせて。山の中で10mも雪が積もるんです。それからずうっと雪かきして泊めてもらって、春になって帰ろうとしたら、「あんた絵描きより坊さんの方が向いてるで」って(笑)。そのまま居っちゃったんです。

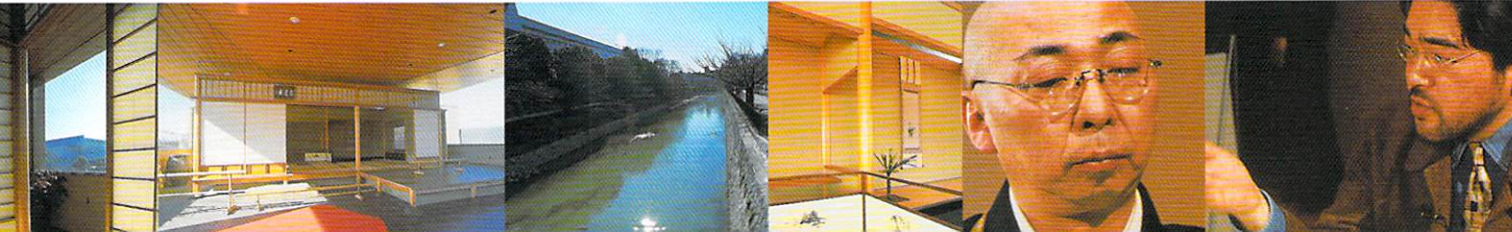
金正 そういう理由でお坊さんに。
平塚 いや、その和尚さんが魅力的だったんです。その信州の妙心寺派のお寺で3年修行をしまして、さらに専門道場のある京都へ来たんです。大徳寺の道場で6年ほど修行してから、今の養源院の住職に。これもまた、京都に居たいちゃった、という感じですか。

金正 東京生まれのご住職から見た京都って？
平塚 最初に驚いたのは人がものすごくゆっくり歩いていることですね。歩きながら眠ってるんじゃないかと思うほどで。
金正 そう、ゆるい感じで。僕もニュー

京都は愛すべきカオス

金正 東京生まれのご住職から見た京都って？
平塚 最初に驚いたのは人がものすごくゆっくり歩いていることですね。歩きながら眠ってるんじゃないかと思うほどで。
金正 そう、ゆるい感じで。僕もニュー

とりも出来ませんし、先生とも口をききませんでしたよ。世の中のきまりってどうなってるのかと思って。そんなとき、冬の信州へスケッチ旅行に出かけたんです。旅館に泊まるお金がないからお寺へ行きましたら、その和尚さんが雪かきを手伝えと。そして和尙さんが雪かきをやらせて。山の中で10mも雪が積もるんです。それからずうっと雪かきして泊めてもらって、春になって帰ろうとしたら、「あんた絵描きより坊さんの方が向いてるで」って(笑)。そのまま居っちゃったんです。





細見美術館内をくまなく巡り収録。まず1階から地下2階までの展示室、地下2階にオープンテラスを持つカフェ・ミュゼで食事を、最後に3階の古香庵茶室にてお抹茶を。多面的のある空間を楽しみながらのトークは新鮮だった。



平塚 逆に東山に登って京都を見れば、伝統建築もビルも、緑もネオンもいっしょくたになったカオス状態。きちっと屋根並が揃って統一感のあるフィレンツェのようなヨーロッパの歴史都市とは全然違いますね。でも、京都がもしフィレンツェのようになれば、かえって死んでしまうような**金正** 僕も同じ意見です。迷いこんでもそこに何か見つけるものがある、それこそ京都の醍醐味ですから。
平塚 新しいものと古いものが溶け合っていると。よろね。

金正 僕も基盤の目のように走る大通りから、密かに派生する路地、裏道が好きです。意外な店が意外な場所にあったりするの京都ならではの。街を歩くとき必ず発見がある楽しみは、京都の自慢できるところじゃないかと。

金正 お寺の仕事に加えて、絵や音楽もされてると相当忙しいってことですね。
平塚 お寺の用事に追われて、単に京都に居るだけなのかも知れませんが、細い路地のように、京都が持つ秘密っぽい部分や奥深いところが好きでもあります。

金正 僕も基盤の目のように走る大通りから、密かに派生する路地、裏道が好きです。意外な店が意外な場所にあったりするの京都ならではの。街を歩くとき必ず発見がある楽しみは、京都の自慢できるところじゃないかと。

ヨーカーの歩くスピードに驚きました。とにかく移動している時間もつたいないって言うんです。全員競争歩やってみたくないから。
平塚 でも言うことと考えることが違うのには困りました。一時期は京都に住むことが苦痛でした。もう今は私も言うことと想っていることを別にしてますけど(笑)。もともと人付き合いが苦手でしたし、修行でも最初は人と出来るかぎり接しないようにするんです。それが住職となると、途端にどんだんと接しなきゃいけないなくなりました。もちろんまわりは知らない人ばかりですよ。
金正 しかも京都人というワケの分からない。

細見美術館

京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
tel.075・752・5555
10:00~18:00/月休
(祝日の場合翌日振替、館内整理日など臨時休あり)
(B2F / CAFÉ MUSEE
10:00~21:30 075・761・5700)
※お抹茶(おうち+「未富」の生菓子)は800円。要予約。
(春夏の展覧会開会期中の土日祝は予約不要)



今回の収録は、細見家三代が蒐集した重要文化財を数多く含む名品が揃う細見美術館の全館にて、次抜きの建築美を堪能しつつ行われた。



ディナーコース2000円

前 3種盛り(生ハムのサラダ、スモークサーモン、牛肉のテリーヌ)
パ トマトのバジリコ風味、ポロネーゼなど4種から1種セレクト
ス コーヒーまたは紅茶
物 フルーツの自家製ジェラート
デザート

アラカルト チーズ館合せ(リグレット付)900円・煎焼きソーセージ700円
ワイン ROBESCO(ルベスコ)1995年・赤(フルボトル3800円)



しばたひろし
マネージャー 柴田裕史

カフェ・ミュゼのマネージメントと厨房を担当する柴田さん。17年のカフェ経営歴を持つ、食を楽しむスペシャリストだ。現在、細見美術館という文化的な空間の中でのカフェのあり方を見つめ、ギャラリースペースとしての活用も検討中だ。